

SURFER SUMI ISAMU



角 勇海 Sumi Isamu

2002.11.22生まれ

和歌山県新宮市南紀 出身

地元南紀を拠点にして日本各地でサーフィンしながら
海外のビッグウェーブに向け活動中

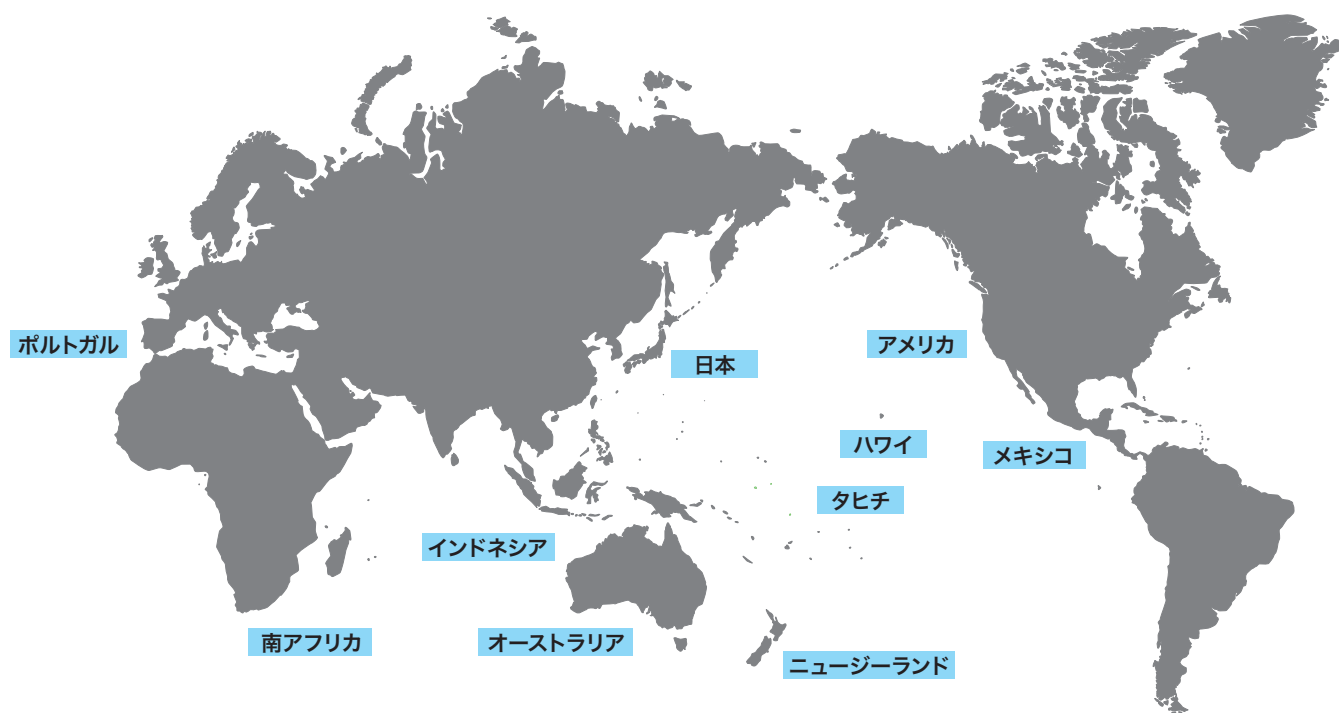
僕は幼少の頃よりサーフィンをはじめ、いまは大きな波に乗るビッグウェーバーとして世界を回っています。
小学5年生の時から毎年ハワイのノースショアに通い、いろいろな波に乗ってきました。
そして22歳で世界最高峰の大会「2024-2025 EDDIE AIKAU BIG WAVE INVITATIONAL」に
オルタネイトとして招待されました。

ビッグウェーブを追求するということは、他のプロスポーツとは違い少し特殊なチャレンジです。
まず、大きな波がたつポイントに行かないといけません。そして生きて帰ってこないといけません。
それを成し遂げるためにはトレーニングはもちろん、普段から自然に感謝し精神力を鍛え、
生活の全てをビッグウェーブのためにささげ、準備しています。

僕の夢は

世界をまわり究極な波を追い求め続けるONLY ONEスタイルのサーファーになることです。

Global Big Wave Spots



今後はハワイで培った技術を活かし世界のビッグウェーブにチャレンジしていきたいです。

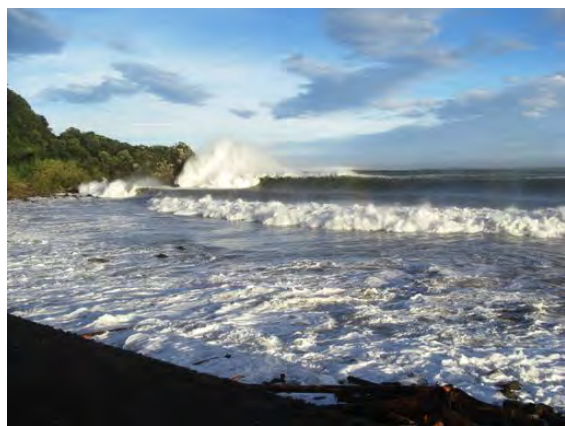
世界の波を追い求めるには、波のたつ時期や現地で波を待つ期間も大切です。

ハワイなら冬の3ヶ月、インドネシアなら夏の3ヶ月、南アフリカなら現地までの旅費なども必要になります。

狙いを定めて準備をし、その波をメイクするには時間もかかります。

いつチャンスが来ても対応できるように構え、着実に世界を狙っていきたいです。

もちろん日本にもビッグウェーブはたくさんあるので、地元和歌山の波、四国、九州とビッグウェーブにチャレンジし、サーフィンを通し日本人としての誇りを世界に発信していきたいです。



地元・和歌山



宮崎

Biography

角 勇海 スミ イサム

2002.11.22 生まれ

和歌山県新宮市南紀 出身

現在も地元南紀を拠点にして日本各地でサーフィンをしなが、海外に向け活動中

サーフィン歴は1歳から

趣味は海、川で遊ぶ事であったり、自然ということ。

特技はもちろんサーフィン

サーフィンでも得意とする分野はビッグウェーブを乗ることです。



サーフィンを始めたキッカケ

僕が約1歳〜2歳の時に、父が僕の背中にフロートバックをつけて、ロングボードに僕と父が乗るタンデムサーフィン(2人乗り)を地元下里にてサーフィンを始める。

2歳ごろからサーフィンをするためにスイミングスクールに通い、泳力を身につけて5歳からプラスチック製のサーフボードに乗り、そこから父の教えの元、徐々に1人で乗る練習をしていきました。



ハワイに通い始め

小学5年生の時に父、母、祖母、と共に、人生初めての海外、サーフィンのメッカ、ハワイへ。

そこでオアフ島ノースショアのSUNSET BEACHに行き、父の友人Mr.Jack Reeves(世界的ボードラミネート職人)の家でSTAYさせてもらう。

その後毎年、両親と3人でMr.J Rの家でお世話になって海外ならではの生活からサーフィンまで、色々な刺激を受けながら、サーフィンの本来のイロハを覚えスキルアップを続けていきました。

そんな中、中学1年生の時に父の大怪我により、初めて単独でハワイに行くことになりました。

その年は、かなり多くの日本人のプロサーファーやトップアマ達が集まるシェアハウスに泊まり、日本のプロサーファーに会うことは新鮮で、新しい刺激は沢山ありましたが、大会に出場して上位に行くための練習や自分が乗れる波の大きさと技の練習だけ、1番多い理由は写真を残すためで、カメラマンに撮って欲しいがためにずっと同じポイントで入ってる人がほとんどで、自分の限界値を超える大波にチャレンジする人、様々なポイントでサーフィンを楽しむ人はその中でおらず、僕とスタイルや考え方が似たようなサーファーはいませんでした。



中学2年14歳の時

父がシェイプ(ボード作り)を教わった、ハワイ伝説的なサーファーでありシェイパーのMr.Owl Chapmanに作ってもらった7'10"のボードでノースショアSunset beachでHawaiianスケールで言う12ft+(約8m越え)の波を波に乗ってから、その同じ冬のハワイで父とMr.Owlのシェイプの9'6"ガンで初めて、Waimea Bayをサーフィンして波をメイクする。

それ以降、単身で毎年、ノースへ通い、滞在期間はおおよそ2ヶ月〜3ヶ月間で、サーフィンの技術を磨いて来ました。毎朝6時ごろの日の出と共に海に向かい、一日に2ラウンドや3ラウンドほど海に入り、1ラウンドで海に入る時間は3時間ほど、普通ならそれで海から上がって次のラウンドまで休憩ですが、長い時は7時間ほど入る時も、もちろん良い波に乗れる時もあれば、全く波に乗れずに帰ってくることもあってあります。

波も日本の波より遥かにパワフルかつ波も大きく、最悪死んでしまうような、危険といつも隣り合わせで、そんな場所で毎日ハードな波に挑んでスキルを上げていき、数々のポイントの波をメイクして行きました。



ノースでもたくさんのサーフポイントがありますが、そのなかでも好きなサーフポイントはサンセットビーチ、ベルギーランド、ワイメアベイなど、他にもあげ出したらキリがないぐらいにあります、主によく行く好きな3つのポイントです。

僕はサーフィンして行く中のルーティーンは、どれだけ大きくても、小さくても、ジャンクコンディションであっても、全ては経験値であって、『どんな時にでも』、とにかく『海に入る事に意味がある』と思う、マインドでサーフするスタイルを今現在まで続けています

Biography

その経験を活かし19歳の時にワイメアで20ft+(約12m)越えの波にも乗り、2022年のEDDIE AIKAU BIG WAVE INVITATIONALが開催された日の早朝、22ft~25ftオーバー(約15m)超えの波でエキスパートサーファー数人のなか、日本人で唯一パドルアウトし、その一つの行動が現地の人たちのライフガードやビッグウェーバー達の目に止まり、

晴れて2024-2025年の

EDDIE AIKAU BIG WAVE INVITATIONAL にオルタナイトとして、この歴史の深い世界最高峰の大会に招待される事になりました。

2024年、マウイ島に渡り世界三大ビッグウェーブポイントとも言われる、ピアヒ(通称ジョーズ)にパドルアウトするため急斜面の崖を3m以上あるビッグウェーブボード抱えて崖を下り降りて行くと物凄くゴツゴツした岩場からのジャンプエントリーし25ft(約15m)はあるう波をメイクしサバイバルしてきました。

サーフボードを作ってくれてサーフィンを教えてくれる父親がいる、その父のボード作りやサーフィンのである師匠達は巨匠リチャード・アレン・ブルーワーから始まりその弟子クレイグ・オウル・チャップマンから一子相伝で父へ受け継がれた、花柄レイフラワーのブルーワーチャップマンサーフボードのマークが入ったボードに乗り教えてもらった技術があってこそ今があると思います。

僕のサーフィンは他の日本のサーフィン選手とは違います。

度々父にはサーフィンで怒られましたが、内容はシンプルに技術の事、サーフィンの本質についてだったり、本当にサーフィンと人生で生きていく上での必要な事だけを教えてもらいました。大会に出るとも言わなかったし、結果を残せともプレッシャーをかけられることもなく、好きなフリースタイルで好きな波に乗りラインを描くようになりこう言うサーフスタイルに行き着いたんだと思います。

僕は、大自然で遊び学ぶことを教えてくれた家族に、この地元 和歌山という地、沢山の周りの友人、色々な場所を旅をして来た土地で経験した様々な波、他とは少し違うパワフルなエネルギーに満ち溢れた場所で育ったサーフスタイルは本当に純粋で綺麗で今のサーフシーンに必要な個性だと思います。

皆んながやってる事に目指す合わせる、じゃなしに自分が通って来た道を信じて進めるピュアで夢のあるサーファーになる事がいいと思います。競うことが全てじゃないし、自由な世界で自分の思う波に乗って、サーフィンの世界はいかに広く素晴らしものか、もっと日本のサーフシーンで個性が沢山ある選手達がいて華があり素晴らしくなるように。

僕の夢は

世界を周り究極な波を追いかめ続けるONLY ONEスタイルのサーファーになることです。

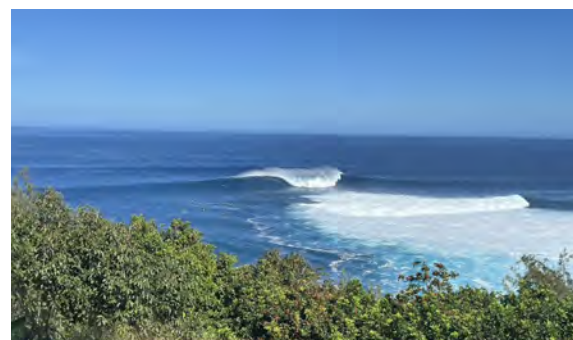
今までのキャリアは

2024-2025

RIPCURL EDDIE AIKAU BIG WAVE INVITATIONAL 24/25 INVITATION Alternate 招待選手

2022

洋之介メモリアルカップ葉山招待選手



EDDIE AIKAU BIG WAVE INVITATIONAL 24/25 INVITATION
この大会は単なるスポーツイベントではなく、エディ・アイカウの勇気とアロハの精神を称える場です。そのため、招待者はその精神を体現する人物であることが期待されます。

Surfing Portfolio



Surfing Portfolio



Surfing Portfolio

